

片倉もとこ氏が総合政策学部教授から 日文研初の女性所長に 「多摩と京都の往復生活を楽しんでます」



片倉もとこ・日文研所長

聞けば、「冬ソナで、ハングル語を学習する」と「だそうである。流るの iPod フラッシュを首からぶ

片倉もとこ氏が総合政策学部教授（民族学）から、国際日本文化研究センター（日文研）の所長に5月就任した。初代・梅原猛（哲学）、河合隼雄（心理学）、山折哲雄（宗教学）という著名な歴代所長のあとを受け、日文研では初の女性所長誕生である。

集まる共同研究機関。着任した感想は、「よい研究者が集まっていて、おしゃべりするのがとても楽しい」と満足げな様子。「研究所は京都の高台にあつて、ウグイスの鳴き声が聞こえたり、ホタルが見られたりと充実した環境です」と語る。イスラーム研究者として知られるが、最近の興味を

ら下げ、柔和な笑顔。「もちろん、冬ソナが入っているのよ」

国立民族学博物館教授、アラブ文献研究センター客員研究員、総合研究大学院大学教授などをへて、93年から中央大学教授。同年の総合政策学部創設に準備室

段階から尽力した生みの親の一人。

目下の研究テーマは「移動と共生」。移動によって人間同士がどのように知り合い、文化を形成していくのか。また、「内なる国際化」

に関しても関心があり、「日本の中に多重的、多層的に存在し混ざり合っている日本文化に、ある種の芳醇さを感じる」という。

所長就任のあいさつでは、「20世紀の学問は分析的で深く、専門的になり過ぎた。

だからこそ、21世紀の学問は総合的でなければならぬ」と日文研の研究者たち

に持論を語った。

所長就任後も、中大では客員教授として学部での講座（「政策文化関係論」）を週1回続ける。「東京と京都の二重生活は大変ですね」と言ったら、「それもまた楽しみ」と笑顔が返ってきた。

水泳部・山口雅文選手（百背）が ユニバーシアード優勝 スポーツの夏 国内外で中大勢が大活躍

トルコ・イズミルで開催された第23回ユニバーシアード競技大会（8月10日～21日）で中央大学水泳部の山口雅文選手（経済学部

3年）が男子百メートル背泳ぎでみごと優勝した。タイムは55秒00。五十メートルおよび二百メートル背泳ぎでも3位に入賞した。

山下誠選手（法・4）も男子百メートル平泳ぎで3位に入賞、2人そろって出場した男子4×100メドレーリレーでも3位入賞を



右が高橋雅文選手。写真は日本学生選手権

百メートル背泳ぎ
 (経・3) 男子
 ▼山口雅文選手
 千五百メートル自
 由形
 (商・2) 男子
 ▼石村元選手

では3選手が優勝
 した。
 種目別(個人戦)
 日本大学。

連覇中の中大水
 泳部は、惜しくも
 僅差のスコアで2
 位、12連覇は成ら
 なかった。優勝は

果たした。
 また、サッカー部の辻尾
 真二選手(商・2)が出場
 した日本サッカーチームは、
 決勝でイタリアをPK戦の
 末破り、3連覇を成しとげた。
 中大から選出された他の選
 手の成績は以下の通り。
 ▼ヨット部・小出雅幸選
 手(経・4) 男子470

級で4位
 ▼陸上競技部・山本一喜
 選手(法・4) 男子やり
 投げ8位
 ◇
 第81回日本学生選手権水
 泳競技大会は大阪府門真市
 なみはやドームで開催(9
 月2日-4日)。
 学校対抗戦(団体)で11



パネルディスカッションも活発に

角田邦重学長は「近
 年、産業界から大学
 生には『即戦力となる
 学生』をという要請
 があるが、4年間の
 学部教育を終えた学
 生に即戦力は本当に
 期待できるのか。本
 学の掲げる実学は即
 戦力とは異なり、基
 礎的な力、人間的魅

基づく教育について理解を
 求めた。
 このあと「大学教育と企
 業が求める人材像」と題し
 たパネルディスカッション
 が北村敬子副学長の司会で
 行われた。
 専門商社・国分
 で人事・採用を担当してい
 る小木曾泰治氏は「最近の
 学生は知識習得に意欲的で

7月22日、赤坂プリンス
 ホテルで、中央大学主催の
 「学長招待会―白門情報交
 換会」が開催された。就職

支援の一環として企業関係
 者を招き毎年開いているも
 ので、人事担当者ら多数が
 出席した。次ページ写真。

力を兼ね備えた学生の育成
 であり、学生には実地応用
 に耐えられる人間力が求め
 られているのではないかと述
 べ、本学の实学理念に

「企業が欲しいのはサッカー型人間」 企業人事担当者ら招いて「学長招待会」

▼山下誠選手(法・4)
 男子百メートル平泳ぎ
 ◇
 マレーシア国のコタ・キ
 ナバル市で行われたフェン

シングの05年アジア選手権
 大会(7月25日-30日)で、
 坂本圭右選手(経・4年)
 が男子エペ個人戦でみごと
 銅メダルを獲得した。千田

健太選手(文・2)は男子
 フルーツで15位、坂本雄
 右選手(法・2)は男子サー
 ブルで18位だった。



あるという長所の半面、打たれ弱く失敗を回避する傾向がある。また、白か黒か

つた力が求められている」と「期待される人材論」に重ねて話した。日本IBM

ディスカッションの後、「五色の間」ではことしの就職状況や来年に向けての支援要請など実際の話を含めて、産・学の意見交換の輪があちこちでみられた。(学生記者 滝沢孝祐)

といった二者択一を好み、グレー・中間といった考え方が苦手ではないか」と指摘。また「企業は現在、野球型からサッカー型へと移行している。つまり、自ら状況把握をし、考え行動して成果を出す、とい

の大塚奈美氏は、大学に期待するものとして、「コミュニケーション力としての英語力、人間対人間の関係を築く能力」を挙げた。

「外国人留学生特待生」ことしは3人 大学院生への新制度2年度目

大学院生を対象にした05年度「外国人留学生特待生」が決まり、7月12日、角田邦重学長から証書が手渡された。昨年度から始まった制度で、2年目になる。初年度は2人だったが、2年連続となるリ・メイグ

ンさん(商学研究科博士後期課程3年Ⅱ中国籍)とキム・ヒギョンさん(文学研究科博士前期課程2年Ⅱ韓国籍)、それにテイ・ケンベイさん(理工学研究科博士前期課程2年Ⅱ中国籍)の計3人が選ばれた。

特待生には、その年度の学費相当額のほかに生活生活費補助として月額10万円、家賃補助として月額上限4万円が給付される。「博士論文の中日の自動車サプライ研究で、昨年秋に中国で企業調査できた。



左からリ・メイグンさん、キム・ヒギョンさん、テイ・ケンベイさん=1409会議室

これもこの制度のお陰と感謝している」(リさん)、「留学生約700人の中から選ばれたという、いい意味のプレッシャーを感じながら、韓国と日本の多様化する家族観や結婚観の比較研究も充実してやれた」(キムさん)と、第1号特待生は経

験を通して新制度の意義を強調した。新たに選ばれたテイさんはレーザーや電磁波の研究。来年8月、電磁波の世界的な大会が中央大学で開かれる予定で、それに理工学研究科のスタッフとして参加する

という。「中央大学の代表として、しっかりと研究成果を発表したい」と抱負を語った。また、ここへきての日程、日韓のギクシャクした関係を念頭においてか、3人は「国と国の関係でも友好の架け橋になりたい」と口をそろえた。